



# 第三十八号

発行日 令和元年十二月一日  
 発行者 石高神社 宮司 高原 章兆  
 発行所 岡山市中区円山八五三  
 電話 〇八六一二七七一九〇〇三

令和の新しい時代おめでとございます。

## 屋根葺替えについて

御寄進のお願いとお礼

かねてより懸案でありました拝殿・釣殿・幣殿の屋根の葺替えをすることに、春の総代会で決まりました。つきましては、まことに心苦しいのですが、早速趣意書を作成して、氏子区域にお住まいの皆様にご寄進のお願いを致しているところでございます。すでに御浄財を賜りました町内もございいますが、事情によって来年になっているところもございいます。総代のおられない町内では、まことに勝手ながら当社社務所へのご持参をお願い申しております。何分にも修理見積額は、消費税抜きで約九八〇万円と高額ですので、少しでも多くの皆様にご支援をお願いする次第でございいます。出費が多端の折とは存じますが、何とぞよろしくお願い申し上げます。

末尾になりましたが、御寄進を賜りました皆様方、町内役員・総代の方々には、厚くお礼申し上げます。

## 御世替りに当社で行った神事

平成から令和の御世替りに当り、当社でも左に挙げた祭典を行いました。踐祚改元奉告祭以外は、社頭掲示とHPをご覧になられた参列者数名と祭祀奉仕者とお祝い致しました。

- 一、天皇陛下御在位三十年奉祝奉告祭 二月二十四日
- 一、天皇皇后両陛下御結婚満六十年奉祝祭 四月十日
- 一、天皇陛下御譲位御安泰祈願祭 四月二十九日
- 一、春祭り兼ねて 踐祚改元奉告祭 五月十二日
- 一、即位礼当日神社に於いて行う祭祀 十月二十二日
- 一、大嘗祭当日神社に於いて行う祭祀 十一月十四日



大嘗祭当日神社祭祀参列記念撮影

# 石高神社の恒例行事

## ◎歳旦祭および初詣

一月一日午前零時から一時ごろまでと三が日の午前九時ごろから夕方五時ごろまで、新年の家内安全祈禱を承っています。

## ◎どんどと祭および古神札焼却祭

正月のお飾りのほか、古い御神札・お守りの焼却もを行います。古い御神札・お守りは、材料を分別しますので早めにお納めください。

## 令和二年のどんど祭

一月十八日(土)

午前十時から

ぜんざい  
のお接待  
有り



## ◎厄祓い

## 令和2年の厄年祝年

厄年祝年	生まれた年
女19歳	平成14年
男25歳	平成8年
女33歳	昭和63年
男42歳	昭和54年
還暦祝	昭和35年
古希祝	昭和26年
喜寿祝	昭和19年
傘寿祝	昭和16年
米寿祝	昭和8年
卒寿祝	昭和6年
白寿祝	大正11年

生まれた年は数え年

厄年には、その年に災いが起こらないように、神社などでお祓いを受ける慣習があります。一般には元日から節分のころまでにお参りします。

## ◎夏祭り(輪くぐり)

毎年七月三十一日の晩です。茅の輪をくぐることによって、疫病を予防して健康に過ごせることを祈り、「ひとがた」に諸々の厄災を乗り移らせて退散させる祭りです。

## ◎秋祭り

毎年十月三日から五日の三日間です。

このうち三日の晩が氏子参りの日になっており、夜店が出ます。五日には氏子総代が参列して祭典を行います。

## ◎七五三詣で

氏神様にお参りし、ここまで成長したお礼を述べ、以後の無病息災を祈願する慣習です。十一月十五日前後にお参りします。

その他、初宮参り、当病平癒祈願、自動車清祓、家祈禱、地鎮祭、各種清め祓い、神葬祭など随時承っております。お電話でご相談ください。平素は官司と権禰宜の二名の神職でご奉仕しています。



# 御世替の国いちばんの祭

## 大嘗祭本当の意義

日本人は、いのちがありその働きがあるところに神の御霊が宿るとする、太古以来の素朴な信仰を受け継いで来ました。神をお迎えし、供物を捧げ、祈願や感謝の言葉を述べ、歌舞音曲をもって神々をおもてなしするといった神祭りの様式が整えられて行き、やがて村々の共同体レベルから国家の祭祀として制度化されていきました。そして、それは一千年を超える昔の姿を維持して今に至っています。

大嘗祭は、天皇御即位最初の新嘗祭です。新嘗祭は収穫感謝の祭りと一般には理解されていますが、新嘗祭の本当の意味は、天皇が新穀を召し上がるところにあります。天皇は、まず神々にお供えた後に、皇祖天照大神より授けられた稻から霊威のこもった稻魂をいただくれます。神々の御命令によってこの国を稻穂のみずみずしく稔る平穏な国とするよう御委任を受けられたとされる天皇は、霊威のこもった稻を召し上がることによって、霊威の更新をはかられます。種籾が来春に向けて生命力を宿すように、人間も神事を行って自らの生命を更新する行事でもあります。

そして天皇陛下は日々、ご祖先と神々に感謝され、広

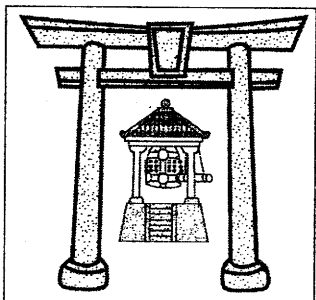
新穀を神と人とが共食する神事が、常陸国風土記や万葉集二首に載っていることから、新嘗は日本の各地で行われていた普遍的な祭りだったらしいことがわかります。大嘗祭では、亀甲占いによって選ばれた悠紀・主基といわれる地方の稻がお供えされるという特徴があります。これには、古代国家が大嘗祭を行うようになった国の統一という事情が隠れているとされます。

## 神社の起源

### ④

神仏習合、武家政権の時代

平安時代になると、神と仏は一体であるという神仏習合思想が進み、明治維新まで続きました。仏・菩薩は神々の真の姿（本地）であり、仏・菩薩が人々を救うために仮に神の姿で現れた（垂迹）という本地垂迹説です。鎌倉時代に入ると、源頼朝が源氏の守護神として祀った八幡神が武士を中心に崇敬されました。以後、武家政権の時代には、神社・神道に対して保護政策がとられ、本地垂迹説とは逆の神を主として仏を従とする理論が受け入れられていきます。江戸時代には国学の隆盛によって神道の優位性が示され、明治維新に至ります。



# Q&A

## ⑥

御神札はなぜ毎年替えるの？

一年間守っていただいた感謝を込めて、新年に神社に納め、一年間守っていただく新しい御神札・御守りを受けるのがよいとされています。御神札・御守りとも神前に供えて祈願されたもので、神霊が宿っています。神霊の宿るものは清浄にしなければいけません。このため一年もたてば古びてくるので一年に一度は取り換えるのが良いのです。

時がたてば劣化して汚くなり、穢れがたまります。伊勢神宮の式年遷宮に見られるように、穢れの蓄積を防ぐために、神社を定期的に建て替えて穢れを祓い、神の力を若がえらせようとした思想が根本にはあります。

## 石高神社への道案内

当社の南側と西側には、石段の参道があります。自動車でお参りの場合は、宮山の東側を山に沿って進むと北側から山に上がる道があります。少し上った左側の空き地または本殿の裏に駐車できます。正月の昼間には混雑が予想されます。帰る方を優先に譲り合いをお願いします。また、宮山の東北のカーブは見通しが悪いのでお気をつけください。

ホームページ <http://ishitakajinja.web.fc2.com/>

